

文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究 (シ05)

目的 東京文化財研究所で行われている調査研究に関する情報及び国内外の文化財に関するさまざまな情報について分析し、それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また、それらの情報の効果的な公開の手法に関する調査研究を行う。

- 成果**
1. デジタル画像の形成方法の研究開発
 - ア) 運営費交付金や外部資金による他プロジェクトの一環として、東京文化財研究所内外において、准胝観音像（東京国立博物館所蔵）、扇面法華経（四天王寺所蔵）など多数の文化財の光学的調査を実施、一部は成果報告書を刊行した。また、調査研究の成果を論文等で発表した。
 - イ) 『春日権現験記巻九・巻十 光学調査報告書』を2021（令和3）年3月16日付で刊行した。
 - ウ) ガラス乾板に記録された色情報に関する調査を沖縄県立博物館・美術館等で実施した。
 2. 文化財情報に関する調査研究
 - ア) 文化財情報の適切な発信のための情報の扱い、特に過去に収集された情報の再活用に関する調査研究を進め、学会や論文を通じて発表した。
 - イ) 展示収蔵施設の学芸員、自治体の担当者などの文化財の実務家を対象に、文化財の記録作成についての1回のセミナー、2回のハンズオン・セミナーを開催した。
 3. 東京文化財研究所が行う調査研究成果の発信
 - ア) 研究情報の発信の一環としてウェブサイトを活用した。令和2年度は、3件のウェブデータベースの新規公開、既存データベースへのデータ追加や機能改善、ウェブサイトの適宜更新を実施した。また、メールマガジン、ソーシャルメディアを通じて、国内外の文化財関係者に対し活動報告や催事などウェブサイトの更新情報、及び新型コロナウイルス感染症拡大に伴う国際機関を中心とした取組みに関する情報を発信した。
 - イ) 2020（令和2）年9月30日付で『東京文化財研究所年報2019』を刊行した。編集にあたっては、各部・センターの年報部会員の協力を得た。
 - ウ) 研究成果紹介のためのパネル展示をエントランスロビーで行った。令和2年度は文化遺産国際協力センターによる「カンボジア・アンコール・タネイ寺院遺跡東門の修復」を展示した。
 4. 調査研究及び研究成果発信のための文化財情報基盤の整備・充実

ネットワーク機器及びソフトウェアの保守・監視を実施、国立文化財機構内他施設の担当者との情報交換を行いセキュリティ水準の維持・向上に努めた。また、職員の情報セキュリティへの意識向上を目的に、「情報システム部会研修会」を1回開催した。なお、所内の情報基盤整備及びセキュリティ関連業務は、各部・センターの情報システム部会員と連携して実施している。

ウェブサイトアクセスランキング

1	ガラス乾板データベース	6	『美術画報』掲載図版データベース
2	書画家人名データベース	7	黒田清輝日記
3	東京文化財研究所トップ	8	年紀資料集成
4	『日本美術年鑑』掲載物故者記事	9	写真原板データベース（4×5カラー）
5	『日本美術年鑑』掲載美術界年史彙報	10	『保存科学』

(令和2年度 上位10位まで)

ウェブサイトの主な更新履歴

(定期刊行物の公開、活動報告、公募情報を除く)

年月日	更新内容	関係部局
20.4.24	新型コロナウイルス感染症予防にかかる美術館博物館等の作品消毒の窓口	保存科学研究センター
20.5.1	新型コロナウイルスと無形文化遺産	無形文化遺産部
20.5.21	文化財修復の現状と諸問題に関する研究会報告書 公開	保存科学研究センター
20.6.3	ご来所の皆様へ(手指消毒や検温、マスク着用をお願い)	研究支援推進部
20.6.5	資料閲覧室の再開	文化財情報資料部
20.6.16	台湾における近代化遺産活用の最前線 公開	保存科学研究センター
20.6.25	資料閲覧室予約方法の変更	文化財情報資料部
20.7.13	『船大工那須清一と長良川の鶺舟をつくる』公開	無形文化遺産部
20.7.14	展覧会「日本美術の記録と評価—調査ノートにみる美術史研究のあゆみ—」開催	文化財情報資料部
20.7.15	デジタルブック版『未来につなぐ人類の技 19 コンクリート造建造物の保存と修復』公開	保存科学研究センター
20.7.21	エントランスロビー展示「カンボジア・アンコール・タネイ寺院遺跡東門の修復」	文化遺産国際協力センター
20.8.6	文化財の記録作成とデータベース化に関するハンズオン・セミナー 「文化財写真入門 —文化財の記録としての写真撮影実践講座」開催	文化財情報資料部
20.8.12	『かりやど民俗誌』公開	無形文化遺産部
20.9.1	ゲッティ・リサーチ・ポータルでの江戸時代版本(織田文庫) 公開	文化財情報資料部
20.9.4	第54回オープンレクチャー 開催	文化財情報資料部
20.9.30	デジタルブック版『未来につなぐ人類の技』1～12 公開	保存科学研究センター
20.10.12	【シリーズ】無形文化遺産と新型コロナウイルス フォーラム1「伝統芸能と新型コロナウイルス」動画公開	無形文化遺産部
20.10.15	研究会「東南アジアにおける木造建築遺産の保存修理」開催	文化遺産国際協力センター
20.10.30	「箕のページ」公開	無形文化遺産部
20.11.11	本研究所における新型コロナウイルス感染者の発生	研究支援推進部
20.11.30	第15回無形民俗文化財研究協議会の動画視聴ページのご案内	無形文化遺産部
20.12.28	第15回無形民俗文化財研究協議会の動画視聴ページ公開	無形文化遺産部
21.1.13	資料閲覧室開室日の変更	文化財情報資料部
21.1.15	「売立目録作品情報」公開	文化財情報資料部
21.1.26	『日本の芸能を支える技VI 三味線 東京和楽器』刊行	無形文化遺産部
21.2.1	「斎藤たま 民俗調査カード集成」公開	無形文化遺産部

- 論文・二神葉子：「尾高鮮之助撮影バーミヤーン西大仏の写真による三次元空間画像の作成」『保存科学』60 pp.131-144 21.3 ほかに4件
- 発表・小山田智寛ほか：「デジタルコンテンツと継続性：明治大正期書画家番付データベースを例に」デジタルアーカイブ学会第4回研究大会スピンオフ研究発表会 20.7.5 ほかに5件
- 刊行物・『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 春日権現験記絵 巻九・巻十 光学調査報告書』 21.3

研究組織 ○二神葉子、塩谷純、江村知子、小林公治、小林達朗、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、米沢玲、城野誠治、中村亮介、谷口每子、安岡みのり、磯山浩美、酒井かれん(以上、文化財情報資料部)

広報委員・情報システム部会：早川泰弘(保存科学研究センター長) 各部署情報システム部会員：安達佳弘、鈴木道夫(以上、研究支援推進部)、橘川英規(文化財情報資料部)、石村智(無形文化遺産部)、倉島玲央(保存科学研究センター)、加藤雅人(文化遺産国際協力センター) 広報委員・年報部会：山梨絵美子(副所長) 各部署年報部会員：井上裕介、三本松俊徳(以上、研究支援推進部)、小林公治(文化財情報資料部)、前原恵美(無形文化遺産部)、犬塚将英(保存科学研究センター)、安倍雅史(文化遺産国際協力センター)

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

文化財情報資料部

「文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー」 シリーズ「デジタル画像の圧縮～画像の基本から動画像まで～」(④シ05の一部として実施)

文字や写真による文化財や収蔵品の記録作成（ドキュメンテーション）は、調査研究・保存活用のための基礎的なデータを取得する活動である。文化財の形と色の記録は、今日ではデジタル媒体で行われることが多いが、デジタル画像の構造や画像圧縮の原理などの基礎についての情報は、十分に提供されているとはいえない。そこで、デジタル画像の圧縮に関する標記のセミナーを開催した。セミナーは3回を予定しており、今回は第1回目として「デジタル画像の基礎」を開催した。

日 時：2020（令和2）年12月23日（水） 13:00～17:30

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：35名（所外参加者）

プログラム：今泉祥子（千葉大学）「デジタル画像の基礎 講演1」

城野誠治（東京文化財研究所）「デジタル画像の基礎 講演2」

文化財情報資料部

ハンズオンセミナー 「文化財写真入門—文化財の記録としての写真撮影実践講座」(④シ05の一部として実施)

本セミナーは、「文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー」の実習形式（ハンズオン）版として、写真撮影に特化したものである。令和2年度には下記の2回を開催した。

第1回

日 時：2020（令和2）年8月24日（月） 10:00～17:00

会 場：上原美術館

主 催：東京文化財研究所

後 援：静岡県博物館協会

協 力：上原美術館

参加者：11名

プログラム：田島整（上原美術館）「寺院調査の事例紹介」

城野誠治（東京文化財研究所）「文化財写真で大切なこと」

城野誠治（同）「撮影実習」

第2回（宮城県博物館等連絡協議会令和2年度第2回研修会としても開催）

日 時：2021（令和3）年3月12日（金） 10:00～17:00

開 場：東北歴史博物館

主 催：東京文化財研究所、宮城県博物館等連絡協議会、東北歴史博物館

参加者：14名

プログラム：二神葉子（東京文化財研究所）「文化財の記録作成の意義」

秋山純子（同）「文化財防災センターについて」

城野誠治（同）「文化財写真撮影の基本」

城野誠治（同）「撮影実習」

- ・第1回 2020(令和2)年9月1日(火)
発表者：秋山純子(保存科学研究センター)「九州国立博物館における環境保全について」
- ・第2回 2020(令和2)年11月10日(火)
発表者：間舎裕生(文化遺産国際協力センター)「イスラエル・パレスチナの考古学と文化遺産」
- ・第3回 2020(令和2)年12月1日(火)
発表者：塩谷純・小山田智寛(文化財情報資料部)「黒田清輝と久米桂一郎—日本洋画界を支えた交流—」
- ・第4回 2021(令和3)年1月12日(火)
発表者：今石みぎわ(無形文化遺産部)「民俗技術における素材と加工技術—箕を中心に—」

文化財情報資料部

文化財情報資料部研究会(④シ)

文化財情報資料部では、ほぼ月に1回のペースで美術史研究者を中心とする研究会を開催して、それぞれの研究やプロジェクトの成果を発表し、さらに討議によって充実を図っている。なお令和2年度は、緊急事態宣言下の年度当初を除き9回を開催、2021(令和3)年に入ってからオンラインも活用した。2020(令和2)年度の開催内容は下記の通り。(肩書は発表時のもの)

- 6月23日(火) 田中潤(文化財情報資料部客員研究員)「近代の大礼と有職故実」
- 7月28日(火) 小野真由美(文化財情報資料部主任研究員)「江戸初期狩野派史料の研究—探幽縮図を中心に—」
- 8月25日(火) 山梨絵美子(副所長)「ゲッティ研究所が所蔵する矢代幸雄と画商ジョセフ・デュヴィーンの往復書簡」
- 10月 8日(火) 丸川雄三(文化財情報資料部客員研究員)「近代美術研究における関係資料の発信と活用」
- 11月24日(火) 武田恵理(東洋美術学校非常勤講師)「初期洋風画と幕末洋風画、形を変えた継承—日本における油彩技術の変遷と歴史的評価の検証—」
コメンテーター：坂本満(美術史家)、佐藤則武(日光社寺文化財保存会)
- 12月21日(月) 野城今日子(文化財情報資料部アソシエイトフェロー)「屋外彫刻を中心とした「文化財」ならざるモノの保存状況についての報告と検討—シンポジウム開催を見据えて—」
コメンテーター：田中修二(大分大学)、篠原聡(東海大学)
- 1月28日(木) 大西純子(神奈川大学国際日本学部非常勤講師)「上野直昭資料について—日本美術史との関係を中心として—」
田代裕一朗(五島美術館学芸員)「上野直昭資料から発見された高裕燮直筆原稿について」
- 2月25日(木) 米沢玲(文化財情報資料部研究員)「片野四郎旧蔵の羅漢図について—図様と表現の考察—」
安永拓世(文化財情報資料部主任研究員)「片野四郎旧蔵「羅漢図」の近代における一理解」
- 3月25日(木) 山梨絵美子(副所長)「白馬会の遺産としての『日本美術年鑑』編纂事業」

文化財情報資料部

東文研 総合検索(④シ05の一部として実施)

東京文化財研究所が所蔵する図書や雑誌、展覧会カタログ、画像等の資料、東京文化財研究所の定期刊行物、国内外の美術関係文献等について、メタデータを横断的に検索することが可能なウェブデータベースで、デジタルデータを公開する「研究資料データベース」も含め、29件のデータベース、約168万件のデータを検索対象とする。検索画面は日英両言語に対応している。当研究所の定期刊行物については、本文のPDFデータを閲覧することも可能である。なお、日本国外における美術展覧会・映画祭開催情報、及び日本国外で出版された書籍情報に関しては、英国セインズベリー日本藝術研究所が採録した情報を受け入れている。

www.tobunken.go.jp/archives/

研究資料データベース(④シ05の一部として実施)

東京文化財研究所が作成、収集した研究資料の画像データやテキストデータを検索・閲覧することができるウェブデータベース。現在、20件のデータベース、10万件余りのデータを公開しており、すべてのデータベースを横断的に検索可能で、一部を除き「東文研 総合検索」からの横断検索にも対応している。
www.tobunken.go.jp/materials/

無形文化遺産部

インターネット公開「国の選定保存技術 邦楽器原系製造の記録〈短編〉」(①ム01の一部として実施)

国の選定保存技術である「邦楽器原系製造」は、邦楽器の絹糸弦に用いられる特殊な原糸を繰糸する技術である。無形文化遺産部では、この技術を保持団体・木之本町邦楽器原系製造保存会(会長・佃三恵子)の協力を得て2020(令和2)年7月に記録撮影、〈長編〉と〈短編〉に編集し、〈短編〉を2021(令和3)年2月より公開している。

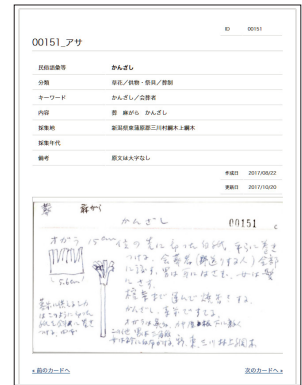


木之本町邦楽器原系製造保存会の繰糸技術

無形文化遺産部

「齋藤たま 民俗調査カード集成」(①ム02の一部として実施)

民俗学者 齋藤たま氏(1936~2017)が作成した調査カードのアーカイブ。カードの内容は植物、動物、まじない、遊び、言葉などに関わる民俗事例を調査収集・整理したもので、総数約4.7万枚。2017(平成29)年に東文研に寄託された。カード内容の概要、キーワード、スキャン画像などが検索できるアーカイブを2021(令和3)年2月に開設。2021年3月末時点で約8,079件を公開、毎月更新予定。



齋藤たま民俗調査カード集成

無形文化遺産部

インターネット公開「箕のかたち 資料集成」(①ム02の一部として実施)

2020年(令和2)年12月~1月にかけて開催した「箕のかたち—自然と生きる日本のわざ」展にあわせて開設したサイト。民具の「箕」に関する映像等の収集・公開を目的とし、各地の箕に関する14件の映像を公開(2021(令和3)年3月末時点。うち1件は公開期間終了)。14件のうち7件は東文研で制作した映像、7件は既刊の映像で公開許可を得たもの。



箕のかたち 資料集成